

第七講 シュノイクシモス：ポリスの形成

近代歴史学の影響

ポリス（都市国家）を典型的な古代国家として位置付ける。

その結果としてエトノス（都市的凝集性を欠く）が排除されてしまう。

多様な古代国家をアテナイとスパルタという非典型的な国家（アテナイ 2,350 km²（佐賀県 2,440 km²）：315,500 人（市民 175,500 人：大津市 32.6 万人）；スパルタ 8,500 km²（兵庫県 8,395 km²）：252,000 人（市民 32,000 人：茨木市 26.9 万人））で代表化し、この二つを対抗軸に捉えて描こうとする。

ロマン主義・民族主義・民主主義の影響・過度の近代化

古代社会を市民（奴隷所有者）と奴隷という階級関係で描こうとする。これは近代資本主義社会の過去への投影である。

古代人の心性

すべてを神話によって説明しようとする。

四季の移ろいはペルセフォネーの地獄行き。

蜘蛛の糸はアラクネーとアテナとの争い。

アテナイの起源はテセウスという英雄により、スパルタの起源はヘラクレス一族の帰還とドーリス人の移動による。

前 5 世紀の悲劇や前 4 世紀の弁論、そして哲学（国家学）による。

アテナイにおけるエスニズムの台頭

前 6 世紀における変化

ペイシストラトス家の僭主制（546 - 510 BC）

中心市（Asty）への機能集中

パンアテナイア祭（起源 566 BC）：アッティカの統合を促進

市のディオニュシア祭（起源 ペイシストラトス時代）：植民都市との結合・
帝国祭

市民の武器の取り上げ（刀狩り）

イオニア人意識の形成

イオニア諸都市の母市

メネステオス（テセウスの後）

テセウスの神話

プルタルコス「テセウス」：

25 節：平等 ἐπὶ τοῖς ἴσοις・民衆 πλήθους・民主政 δημοκρατίαν・大衆 ὄχλον・貨幣 νόμισμα

32 節：民衆を煽動する δημαγωγεῖν、群衆 ὄχλω、すべての人を一つの市街地に押し込み εἰς ἓν ἄστυ συνείρξαντα πάντας・自由 ἐλευθερίας・主人 δεσπότην・臣下や奴隷 ὑπηκόους… καὶ δούλους (アテナイ帝国と同盟国の関係で用いられる用語)

神話から見るテセウスによるシュノイクスモス

外来者によるシュノイクスモス

神話の伝統：アリストデモスの双子の兄弟プロクレスとエウリュステネス (スパルタ)・テメノス (アルゴス)・カドモス (テーバイ)・シシュポス (コリントス)

トロイゼン生まれ

アッティカ地方各地に小王国が点在

小王国の統合

住民の統合と平等化

身分制度の創出：エウパトリダイ (貴族)・・・宗教・役人・法律
ゲオモロイ (農民)・・・有用性
デミオエルゴイ (工匠)・・・数の多さ

貨幣の鑄造

メガラの併合とペロポネソスとの境界設定

イストミア祭の創設

既存の組織を利用して統合

一種の連邦国家 (各デーモスに役人と議会と評議会)

巡回裁判

各地方に祭典

テセウスはヘラクレスに対抗して持ち上げられた英雄

元々は「ミノタウロス殺し」「ケンタウロノマキア」(Odys. 1. 265-268)

ヘラクレスの再従姉弟にされる

ヘラクレスと「再従姉弟」(Plut. *Theseus*, 7)

ヒイポダメイア } — [リュシディケ — アルクメネ — ヘラクレス
ペロプス } — [ピッテウス — アイトラ — テセウス

アイゲウス

トロイゼンのピッテウスの孫とされる・・・ペロプスを祖先とし、ヘラクレスと親族
ヘラクレスの七つの冒険を真似た六つの冒険

エピダウロスのペリフェテス（棍棒持ち：Plut. *Theseus*, 8)

イストモスのシニス（松たわめ：Plut. *Theseus*, 8)

クロンミュオンの猪（ファイア）またはファイアという女賊（猪という綽名：
Plut. *Theseus*, 9)

メガラのスケイロン（崖から投げ落とす：Plut. *Theseus*, 10)

エレウシスのケルキュオン（レスリング：Plut. *Theseus*, 11)

ヘルメウスのプロクルステス（引き伸ばす人：Plut. *Theseus*, 11)

その後

マラトンの牡牛（Plut. *Theseus*, 14)

ミノタウロス（Plut. *Theseus*, 17-20)

「ヘラクレスの再来」と言わせる（Plut. *Theseus*, 29)

アマゾンとの戦い 26-28 節 フィロコロス他

ケンタウロスとの戦い・コルキス遠征・カドメイアの戦いの戦死者を引き取る
（エウリピデス「創作したように」・フィロコロス・アイスキュロス）

史料の問題

主として前 5 世紀～4 世紀のもの

フィロコロス (340?-267/261BC)・ヘラニコス (490-c.400BC)・シモニデス (c.
556 - 468 BC) など

つまり、後世のもの

その中にはアイスキュロスやエウリピデスなどの悲劇の作品も含まれている。
プルタルコス自身が「エウリピデスが創作したように」と述べていることに象
徴されるように。

伝説形成の背景

前 5 世紀～4 世紀の哲学（政治哲学）の言説が散見される

父祖の国制をめぐる論争

テセウスの国制を民主政と見るのか寡頭政と見るのか

テセウスによるシュノイキスモスは前 5 世紀～4 世紀の政治哲学の産物。

ヘレネの略奪 31 節 ヘラニコス

テュンダレオスの子らの侵入、エケモスとマラトスがアルカディアから攻めてきた→
アカデメイアとマラトン 33 節

イリアス三巻一四四

モロッソイ人の王アイドネウスに捕らわれる 31 節 釈放 35 節

スキュロスでの死 35 節

前 476/6 年 ピューティアの命令 キモンによる発見 36 節

プルタルコスに引用される文献

ペレキュデス (前 5 世紀中ごろ)・デモン (前 400 年頃)・フィロコロス (前 4 世紀)・
クレイデモス (前 4 世紀)

何れも後世のもの

考古学

スノドグラス：人口急増→土地の効率的利用→産業構造の変化（牧畜→農耕）→神殿や
祠が地域社会の核に→都市の形成。

暗黒時代を通してアッティカ地方はアテナイを中心に文化的にまとまっており、アテナ
イから地方へと物と文化は流れていた。

人口の急増は人口そのものの増加によるよりも、墓地への埋葬制限が緩和されて墓の数
が増えたとも解釈できる。

暗黒時代の身分制社会が「市民 *politai*」という範疇に統合される事によって、被葬資格
者の数が増加する。その結果としての墓の増加。

結論

暗黒時代型の身分制社会 (*eupathridai* と *kakoi*)

市民団 *politai* の形成→見かけ上の人口増加

市民団の中の身分制社会化と貴族政の形成

貴族・農民・工匠

貴族による政治・経済の独占

ヘクテモロイ（六つを分ける隷属民）の問題

暗黒時代以来の隷属農民